

小型人工衛星!

身近になった宇宙のフロンティア

近年の科学衛星は、ミッションが高度化したことにより、大型・複雑化する傾向にあり、技術的な難度が上がっています。そのため開発が長期化し、計画から打上げまで10年近い歳月を必要とする衛星が多く、その価格は100億円を越えるほどの高価格化が進んでいます。これらの課題を解決するために話題になっているのが小型人工衛星です。

小型衛星は、より高い頻度で、より迅速に、低予算でも学術的意義の高い先進的な宇宙探査・観測・技術試験を実施することができます。このような小型衛星は『ピギーバック衛星』として打ち上げられます。ピギーバック衛星とは大型衛星がロケットで打ち上げられる際にロケットの余剰能力を使って打ち上げられる衛星の総称で、いわば大型衛星に相乗りをさせてもらうことで打ち上げられる衛星です。また、財団法人日本宇宙フォーラムが主催する衛星設計コンテストも毎年多くの参加者があり、大学の研究室では小型・超小型衛星の開発が盛んに行われ、話題になっています。

すでに2002年12月には千葉工業大学により日本で初めて、学生たちが設計、制作に携わった鯨生態観察用衛星『観太くん』が打ち上げられました。また、2005年に打ち上げられたオーロラ観測衛星「れいめい」は科学観測用小型衛星の先駆者として長期間にわたる観測実績を残しました。八王子市からも今年、創価大学で開発した衛星の打ち上げが2010年に決まりました。

今回の先端技術セミナーは『観太くん』のプロジェクトを指導し、衛星設計コンテストの実行委員長も勤められた東京大学名誉教授林友直氏と、2010年に打ち上げられる予定の創価大学の小型人工衛星『Negai☆』のプロジェクトを指導した黒木聖司教授、小型人工衛星の通信機器の設計と製作を担ってきた八王子市の株式会社アドニクスの小島要社長に小型人工衛星の現状と将来、その活用方法についてお話しをいただきます。皆様のご来場をお待ちしております。

◎日時 **平成20年12月3日(水)**

午後4時～6時30分

◎場所 **八王子先端技術センター開発・交流プラザ**

◎基調講演

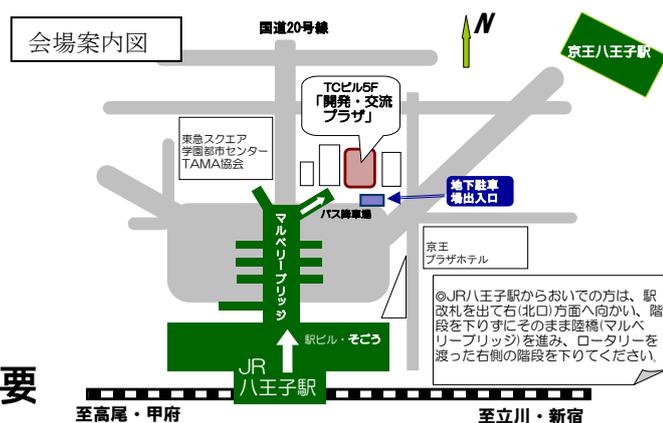
『小型人工衛星が拓く
宇宙観測の新時代』
東京大学名誉教授 **林 友直氏**

◎講演『八王子発の人工衛星Negai☆』について』

創価大学教授 **黒木聖司氏**

◎技術紹介『小型人工衛星を支える通信技術』

株式会社アドニクス 代表取締役 **小島 要**



◎ 主催：八王子市 後援：社団法人 首都圏産業活性化協会／サイバーシルクロード八王子

◎ 参加費無料 定員40名 ※終了後懇親会を予定しています(参加費1000円)

○参加申込先

八王子先端技術センター「開発・交流プラザ」までTel・fax・メールでご連絡ください。

Tel/FAX 042-648-3276 e-mail u6895cu429x@asahi-net.or.jp

社名

参加者氏名

役職

懇親会への参加 する しない

Tel

e-mail

参加会社・組織の名簿を配布しますが記載への同意を する しない

※申込に際し記載していただきましたその他のデータは八王子市が主催、後援するセミナー等の周知以外には使用しません。